

水害発生時における避難の心得

■ 命を守るための行動（＝避難行動）を取りましょう

風水害などの災害が発生するおそれが高まったとき、命を守るための行動（＝避難行動）を取ってください。

避難行動には次の④つの行動があります。災害の種類ごとに危険な場所を把握し、どのような行動を

立ち退き避難

- ①避難場所・避難所への移動
- ②避難場所・避難所以外の安全な場所（親せき宅や知人宅など）への移動
- ③近隣の高い建物、強度の強い建物などへの移動

屋内安全確保

- ④建物内のより安全な場所（高い場所など）への移動とその場所での待機

● 避難途中…浸水がひざ下近くまできたら

近くにある高い建物などに避難してください！



通常、浸水が50cmを超えた場所での避難行動は危険です。水の流れが強いときは15cmでも危険です。

● 自宅にいるとき…浸水が始まったら

すぐに上へ避難してください！



■ 勇気をもって避難しよう

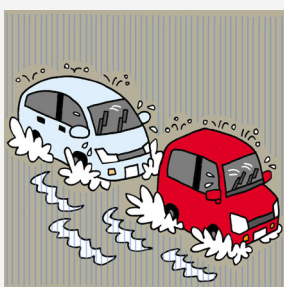
● 逃げ遅れずに、生き残るための率先避難!!

隣近所が避難している姿を見たり、避難の呼びかけが近所からあると避難率は飛躍的に高まります。避難指示などの発令時は、みんな不安の中にあります。そんな時、隣近所に声を掛け率先して避難する勇気が多くの命を救うこととなります。自らの避難が自分の命のみならず近隣住民の命も救うこととなります。

強い雨、ここが危険

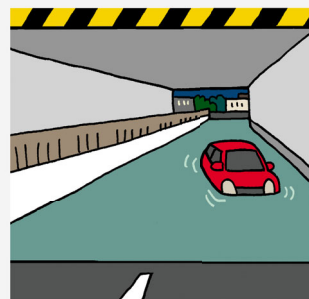
強い雨が降ると河川のほかに、下記の身近なところが危険になります。

側溝のつまりによる氾濫



溜まった雨水が、排水されずに道路などに溢れ出した状態です。歩行者が足を取られる危険性があります。

アンダーパスの浸水



複数の鉄道路線や道路が地下で交差する構造をアンダーパスといいます。雨水が水没する危険性があります。

避難の際に注意すべきこと

■ やむなく浸水の中を歩かなければならないときの注意

● 歩ける深さの目安は大人で50cmまでです。それ以上は救助を待ちましょう。



● 水深が浅い場所でも流れが速い場合は、非常に危険です。無理をせず救助を待ちましょう。



● 高齢者や身体の不自由な人などは背負って避難しましょう。



傘は使わず、雨合羽を着用する。

軍手（手袋）を着用する。

長い棒などを杖にして、安全確認をしながら歩きましょう。

水面下には、側溝や障害物などもあり危険です。

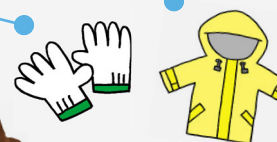


● 氾濫による水は汚水が混ざっているため、むやみにさわらないようにしましょう。



避難するときの服装

非常持ち出し品はリュックサックに入れて背負う。

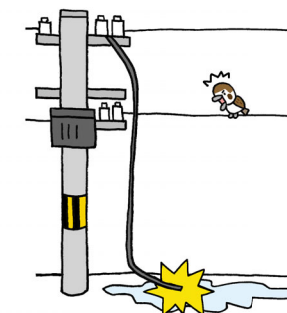


紐でしっかり締められる運動靴をはきましょう。

裸足や長靴は危険です。



● 切れた電線など、危険な場所には近寄らないようにしましょう。



● 深い浸水だとマンホールに気付かず、吸い込まれてしまう場合があります。



● 幼児は浮き袋やベビーバスなどが便利です。

